

## 閉塞性末梢動脈硬化症の

**症状** はじめは、無症状や冷えを感じるくらいですが、そのうち歩くと痛くなるけれど休むと痛みがおさまる「間欠性跛行」という症状が出てきます。進行してくると、安静にしていても痛む「安静時疼痛」を呈するようになり、さらに悪化すると、少しの傷からでも細菌感染により化膿し、深い潰瘍ができ、ひどい場合には壊疽となって、下肢の切断に至ることもあります。

**検査** この病気が疑われると、皮膚の状態を観察し、同時に脈拍や血圧測定、触診などで血流の状態を調べます。また、皮膚の浅い血流の状態を調べる「皮膚灌流圧測定(SPP)」と呼ばれる検査も行います。さらに血管内超音波検査、CT、MR(MRI、MRA)、動脈造影検査などの検査をすることによって、血管の狭窄や閉塞部位、また全身の血管の状態を調べていきます。



治療法は、6科の診療科長が2週間に1度集まり検討  
住友病院では、患者様それぞれの症例について腎センター、心臓血管外科、整形外科、皮膚科、形成外科、放射線科の6科の診療科長が2週間に1度集まり、カンファレンスを開いています。それぞれの分野の専門知識を持ち寄り、個々の患者様に最適な治療法を真摯に検討しています。

住友病院では、診療科の枠を越えた“チーム医療”で、高度な専門性を発揮しています。今回は腎センター、心臓血管外科、整形外科、皮膚科、形成外科、放射線科が一丸となって取り組む、末梢動脈疾患のチーム医療についてレポートします。

高齢化や腎臓病、高血圧、糖尿病などの病気で、動脈の内側にコレステロールがたまって、血管に負担がかかり続けた結果、血管の内部が狭く、流れが悪くなり、動脈硬化症という状態になります。動脈硬化症になって血液の流れが悪くなると、酸素不足や栄養障害を起こして細胞が死んでしまいます。足も例外でなく、手足に血液を届ける動脈「末梢動脈」に硬化症が生じると、血行不良が起こり、「閉塞性末梢動脈硬化症」という病気になるのですが、近年この病気に罹患する患者様が増えています。

### 皮膚科

足に何らかの症状がある患者様が最初に訪れることが多いのが皮膚科と言えます。皮膚の状態や、検査の結果などからその後の治療法を見極めていきます。治療では皮膚潰瘍部のケアを担当しています。



皮膚科 診療部長 庄田裕紀子 Yukiko Shoda

## チーム医療

Team Sumitomo Hospital

Mission

# 患者様の足を守れ!

できる限り自分の足で歩いていただくために  
末梢動脈 疾患と闘う

### 形成外科

可能な限り自分の足で歩いていただけるように壊疽の拡大防止や潰瘍手術などを行います。また、「末梢血幹細胞治療」では幹細胞移植術を担当しています。



形成外科 診療主任部長 高木 正 Tadashi Takagi

### 心臓血管外科

細くなってしまったり、閉塞した動脈の先に血液が流れるように、人工血管や患者様自身の血管を用いて血管をつなぎあわせ、詰まった場所を迂回する別の道(バイパス)を作るなど外科的治療を担当しています。放射線科のPTAと共に、バイパス手術により直接血流を確保することは、閉塞性末梢動脈硬化症治療において極めて有効です。



心臓血管外科 診療主任部長 安宅 啓二 Keiji Ataka



整形外科 診療主任部長 大澤 傑 Suguru Ohsawa

### 整形外科

治療を行っても切断せざるを得なくなる場合があります。そのような場合に、手術を担当します。また、術後のリハビリテーション、義足等の作製・調整も行います。

### 腎センター

#### 末梢血幹細胞治療

治療中(保険適用外)の治療方法で、この治療は大阪府内では当院と他1病院のみで実施されている新しい治療法です。この治療法では、まず、自分の血中から成分分離装置により“新しい血管をつくることのできる幹細胞”を採取します。この幹細胞を患部に100~200ヶ所注射し、血管の再生を促すものです。血管の再生には2~3ヶ月を要します。自分の血液を使用するため安全で、術後が楽であることから現在注目されている治療法の一つです。(治療参加には、全身状態、年齢などの制限があります。詳細は腎センターにお問い合わせ下さい。)

#### LDLアフェレーシス

血漿交換療法と呼ばれるもので、自分の血中から吸着器により、いわゆる悪玉コレステロールなどを取り除き、その後の血液を身体に戻す治療法です。これにより細くなっている血管の流れをよくする効果が見込めます。副作用は少なく比較的簡便な方法ですが、しばしば効果が一時的であることが問題です。

### 放射線科

主に血管内治療「経皮的血管形成術(PTA)」を担当しています。これは、風船のついたカテーテルで血管を拡げる治療法です。もし風船だけで十分な効果が得られないときは、ステントという筒状の金属製網を血管内に留置します。治療は約1~2時間で終了し、入院期間も数日と短いのが特徴です。当院は膝下領域のPTAを実施している数少ない病院の一つです。



放射線科 診療部長 山本 浩詞 Hiroshi Yamamoto